

会 議 録

- 会議の名称** : 西東京市地域情報化計画策定審議会 (第 5 回)
- 開催日時** : 平成 14 年 4 月 23 日 (火) 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで
- 開催場所** : 田無庁舎 3 階庁議室
- 出席者** : (委員) 鷹会長、矢内副会長、岡田(和)委員、小館委員、佐々井委員、富永委員
(次席) 岡田(裕)委員、工藤委員、)
(事務局) 坂井企画部長、尾崎企画課長、櫻井企画課主査、櫻井情報推進課長、青柳情報推進課長補佐
- 議題** : 総合計画策定にあたっての基本方針及び全体スケジュールについて
- 会議資料** : (添付資料参照) 1.西東京市地域情報化計画策定審議会第 5 回会議次第、
地域情報化推進に関する平成 14 年度の取組み事業の概要
地域情報化計画の基本的考え方
地域情報化計画策定に関する実態等調査(案)
地域情報化計画に関する諸計画との調整(各部、各計画ヒアリングテーマ)(案)
- 会議内容** : 発言者の発言内容ごと要点記録
- 議事開始のあいさつ 会長
 - 1 . 平成 14 年度の取組み事業について 青柳
- 【資料 地域情報化推進に関する平成 14 年度の取組み事業の概要】
- ・住民票・印鑑証明自動交付機を 1 台増やし計 4 台に。
 - ・教育情報センターの整備：教育委員会と連携して進めている。
 - ・保谷庁舎の東分庁舎の旧電算室を改修し、研修施設を含めた情報センターを整備。
 - ・学校内 LAN は平成 17 年度に全校・全教室に配備出来る様に準備をしている。
 - ・地域イントラネットの高速化には光ファイバー(N T T の「スーパーワイド LAN」を予定)。
 - ・住基ネットのセキュリティーに関しては 8 月の運用開始に間に合うように準備中。
- 会長) 市の側で精力的に取り組んでいることが見受けられる。審議会での内容がだいたい盛り込まれているようだ。
- 佐々井) 学校内 LAN の整備とは、具体的にはどういうことか？全教室ネットワーク化ということは、どの教室でもインターネット教育とかパソコン教育ができるというイメージか。
- 青柳) モデル校については全教室から LAN につなげてインターネットが使えるということである。
- 佐々井) 子供達全員にネットワーク回線をつなげるのか、それとも無線 LAN とかでやるのか。
- 青柳) どのような形で回線を引くかは工事の関係で調整中。無線も話題に出ているがセキュリティーの問題があり、有線だと考えている。
- 小館) 大変積極的で良い。大学の先生によると昨年度入学した学生より今年入学した学生

の方がはるかにコンピュータ教育を行うのに教師側が楽だという。それだけ高等学校での一年の差が大きい。これだけ学校にLANが配備されると目に見えた変化が出てくると思うが、これは主にインフラ整備であって、実際にこのような整備が整ってもそれを運用・教育する側の人材(教師)に対しての施策はどうなっているのか。インフラだけ整備されても、それをどう動かすかが問題。大学は50人の教育に対し教師1人、助手3人でサポートしコンピュータ実習を行ってる。特に小学校などはかなりのボランティアを導入する必要が出てくるのではないかと。

青柳) 教育委員会で担当しているが、教員は毎年夏に研修をしているということである。ボランティアについては、パソコンの指導を補助する専門員を嘱託で導入している。教育コンテンツをどう使うかについては、今年度教育コンテンツを試すプログラムも検討されているので、サポートするやり方を勉強してもらいたいと情報推進課として教育委員会にお願いしている。

会長) モデル校4校の配置はどのようになっているのか。

青柳) 教育委員会の方で選定している。小学校2校、中学校2校。希望調査を行ない、今月には選定を行うと聞いている。

富永) 全体の学校の数はいくつか。

青柳) 小学校が19校、中学校が9校。

富永) モデル校に選ばれなかった学校はどうなるのか。

青柳) 平成17年度までには全校に配備する予定なので、順次整備する予定となっている。

会長) 教育情報センターは充実した施設になるのか。

青柳) 今年どこまで出来るかわからないが、教育コンテンツの作成やライブラリの機能のほか研修室も整備する。教育だけでなく多目的な用途に使える情報化の一つの核になればと思っている。

会長) 色々な予算がらみになるとはと思いますが、進捗状況を報告して頂ければと思う。

- 2 . 地域情報化計画の考え方 青柳

【資料 西東京市地域情報化計画の基本的な考え方】

会長) この基本的な考え方は今まで議論されたことをかなり踏まえて提案する形になっている。前回の議論では西東京市の情報化についての特色が見えないと言う事だったが、今回は地域情報化が前面に出て、それが反映されているようだ。基本的な所は、ITによる情報化とうまく分けながら相互作用を機能させ、ふれあいのある街を作っていきたいというコンセプトですね。

佐々井) 意義・目的が最初にくるのは良いと思うが、イメージ図としては情報の分量が少し多いと思う。(2ページ)上の3行の言葉を頭にしっかりイメージしてもらうために図があるのは良いが...私ならこう表現するが...(図を示しながら)ほとんど変わらないが..

2ページと3ページの説明の関係がわかりにくい。一連の図として見る感じもしな

いではないが、下(3ページ)の方が西東京市のIT化の考えが出てると思う。上(2ページ)が良いと書いてあるが、下(2ページ)の「西東京市が描く新しいコミュニケーション社会」というので上(2ページ)の図を説明するようなイメージで捉えたらどうか。

会長) 2ページと3ページのことか？

佐々井) そうだ。2ページと3ページの関係がどのように読むのか、とわかりにくいので…。読み方を誘導するようなものはどうかと…。この(自作のイメージ図)イメージは西東京市が「21世紀を開く…」だと思ふ。それを支えるのが「ITを活用した新しいコミュニケーション社会」、それは何かと言うと「豊かな情報交流が生み出す人と会いたくなる街、人が触れ合う街」なんだと。この関係は西東京市の理想を実現する為に土台となるコミュニケーション社会を作っていかなければいけない、それを作ることが地域情報化の推進だというイメージにした。コンピュータ社会が西東京市が目指す目標の為に基礎的なものというイメージにした。その下はほとんど変わらないが、(2ページ)の左と右の関係が良くわからない。「地域の中で支えあう福祉のまちづくりの情報化」とか対話の情報化があつて、その中で切り口を分けて書いてあるが、そうではなく「暮らしの情報化」とか、私は「地位経済の情報化」と言うのが言葉として良いと思うが、「企業・事業者の情報化」というものを逆の方向に整理して、その中に「福祉のまちづくり…」と書いた方が捉え方がシンプルで分かり易いのではないのかと思う。この下(2ページ)の所は説明も難しい。私の整理では(自作イメージ図)の「ITを活用した…」が下(3ページ)の図ですね。(自作イメージ図)「豊かな情報交流が…」が何なのかと言うと「ITによる情報化」と「人による情報化」によってもたらさせる、それが分かり易いのではないか。コミュニケーション社会というのが重要で、それが今までコンセプトについて色々議論されていた事だと思ふ。こんなまとめ方もあるということ。

会長) ニュアンスの問題があるかもしれない。単純明快にわかりやすくしては、ということですね。

佐々井) 分かり易さだけの問題なので、本質的な議論をしている訳ではない。

青柳) 2ページ目の左の6項目は新市建設の時のテーマである。総合計画は別途作成中で最終的には整合性をとらなければいけないと思う。例えば「地域の中で支えあう福祉のまちづくり」を行うのに、右側の「暮らしの情報化」の部分と「企業・事業者」の部分と「行政の情報化」で取り組む、というイメージで書いた。

佐々井) こちらの方(2ページ左)は最終的な目標という、それこそ21世紀に生きる一人一人が輝く街の具体的な姿に近い感じがした。下(3ページ)は具体的にどうするかを書いて結果どのような効果が出るのかという感じかと捉えてしまった。

会長) 従来からある伝統ある温もりある人間社会はそのまま発展させていきたい、新しいITを導入した新しい社会もそのまま発展して両立して行きたい、のがこの考え方だと思ふ。

- 富永) ムードづくりの言葉として市民に対する感覚的な訴えみたいな、「若者を支える情報化」とか、キャンペーン、看板をたてるイメージではないか。
- 青柳) 最終的にはいろいろな政策プログラムが出てくると思うが、それがどこに当てはまるかという体系作りという、当てはめる先を書いている。
- 富永) 福祉・建設・教育・交通・産業、それぞれセクションに分かれているのか。
- 青柳) そのイメージである。
- 坂井) 左の文言は、市が合併したときに法律上作らなければいけない新市建設計画として議会の議決を取った体系を書いている。今は新市になったので改めて新市としての基本方針を策定中なので、新しい体系がでくる。この文言自体は、今ある行政文字を使わせて頂いている。
- 岡田和) この文言は大事にするとして。目的が入っているからややこしくなっている。分かり易いのは佐々井さんの整理であろう。この(2ページ下左)6つがちゃんと出来たのが上(2ページ上)の「21世紀…」ですね。この「21世紀…」の中身を説明しているとすれば、場所が違うという指摘はわかる気がする。
- 坂井) 「21世紀…」は、新市建設計画の文言を仮置きしている。総合計画ができて全体の西東京市の建設プランができればこのスローガンも変わるかも知れない。
- 岡田和) いずれにせよ、「21世紀…」の中身を6つ(2ページ下左)がいつてると考えて良いのではないかと。場所が離れているからややこしいが、右側(2ページ下)はそれをやる手段だから下(3ページ)に置いといて良いというのが佐々井さんのご意見だとおもう。それの方がわかり易いとは思う。ただ、そういう目的意識が重要だということと下(3ページ)にあるという理屈もわかる。慣れてくると段々わかって来てしまう。
- 富永) 予算には絡んでくるのか。経費・運用・人などはどうか。
- 坂井) 最終的には財源の裏付けをもって、体系をわけて。最終的には左に具体的事業を並べていくところになると思う。
- 会長) 2ページの図の新しい形のコミュニケーション社会というのは、その下にある3つのに支えられているのであって、左の6つのカテゴリーは3つと関係あると考えると間違いなのですね。二つの体系をまとめながらミックスさせようという意図にあるのであれば、佐々井さんが提案した図の「地域情報化の推進…」の上の矢印の所に6つのカテゴリーがくれば良いのではないかと。
- 岡田和) 3ページ目のタイトルは何か。「新しい形のコミュニケーション社会とは」というタイトルか。3ページ目はまた非常に難しい、哲学的。
- 会長) 3ページ目はまたリピートしてる。佐々井さんが書いた図を説明している感じである。
- 岡田和) 「暮らしの情報化…」が「ITによる情報化」なんだけど「人による情報化」も大事にしますという意味ですね。機械ばかりでなく人との直接のふれあいも大事にしますという。

- 青柳) 2ページ目の下にそのまま3ページがつくと一体的な絵になると思う。
- 岡田和) そうです。「ITによる情報化」に「暮らしの情報化」とかをつければ良いのか。
- 青柳) 「人による…」部分もあると思う。
- 会長) 三つの情報化を進めるにあたってこういう事もよく見なければいけないという趣旨ですね。事務局側と佐々井さんの図をマージして2ページと3ページの関係が良くわかる形に整理すれば良いと思う。
- 岡田和) 「企業・事業者の情報化」が分かり難い。これはなにを言おうとしてるのか。新しいIT産業の創生なのか、ITを使って企業活動の効率化を市が援助するのかという2種類の側面が入ってるのか。本当に市がなにかやることがあるのかが、具体的な政策のときに心配になる。題目としては良いが。
- 会長) 言葉の並びとしても、主体を前面に出してるから「地域経済の情報化」のほうがやんわりしてて良いかも知れない。
- それでは2ページ・3ページの関連と所は今の様に整理するという事で良いか。次の、4ページの「地域ポータル」についてはどうか。
- 岡田和) 「地域ポータル」とは、市がHPを作って色々リンクを持ってやります、という具体的な政策ですね。他に具体的な政策を出さなくても良いのか。地域情報化の推進は「地域ポータル」だけか、と思われてしまう。
- 会長) これだけを取り上げたというのは特別な意味があるのか。発信・受信機能を強化しようという意味だとは思うが。
- 青柳) 「地域ポータル」とは、例えばHPでいう「ポータルサイト」という限定したイメージではなく、もう少し広いイメージを考えている。普通「地域ポータルサイト」という所、「サイト」を取った。人と人と触れ合うという場所が「地域ポータル」ということである。
- 岡田和) でも、具体的にはウェブのアプリケーションですね。
- 青柳) そこに色んな施策が地域ポータルに結集して、そこが人と人とが触れ合う場だというイメージである。
- 会長) 「暮らしの情報化」「地域経済の情報化」「行政の情報化」の三つの大きな流れをどうやって具体化するかところでいきなり「地域ポータル」となるからわかりにくいのではないか。
- 岡田和) 「地域ポータル」という言葉は、ウェブだけでは無く、テレビ電話とか…。やっぱりウェブでしょうね。
- 青柳) IT的にはウェブになると思う。色々な情報が集まるところということである。
- 岡田和) ちょっと限定的な感じがする。
- 小館) ホームページだけ作ってそこに全部入れておけば地域の情報化が推進されているよと言うような簡単なことではないし、もっと深い考えがあると思う。
- 矢内) あえて拡大解釈をすれば(4ページ)下にある「多種多様な…」を統合したようなものを含めて地域ポータル的な役目をするような何かがここに収まれば良い。しかも

それが具体性を持っていればもっと良いが、じゃあ具体化するときはどうするかというのはなかなか難しい問題である。

岡田和) 保谷庁舎の情報センターという機能がこの地域ポータルの中にあるというイメージで良いのか。

会長) 地域情報化推進の基本的な考え方を出すので、基本的な考え方のアイテムを羅列する形でそれを見せて次の具体的な内容を詰めるという、推進の方法ですから、(4ページの)下にあるようにメディアの活用とか、地域内・世界への発信とかをきちんと書けば良い。

岡田和) スーパーワイドランというのは具体的な内容として重要なんですね。

青柳) そうだ。

岡田和) 地域内の発信、収集もそうだが、万感を込めた地域ポータルとした時、具体的な政策をどこまでこの中で言うかだが。スーパーワイドランとかをきちんと設備しますとかの途中の文言が必要かも知れない。2ページ・3ページからいきなりでは難しい。途中の文言としては地域ポータルという図は良いとは思う。例えば地域内に発信とか情報の収集とか、市として市内の LAN を整備するとかということである。この内容では地域情報化推進の方法と言うのは言い過ぎだと思う。

会長) この章は地域情報化推進の方法についての基本的な考え方を言う訳だから、ここに書いてある言葉をきちんと表現すればいいのではないか。例えば「地域の情報資源を有効活用すること」とか「地域の特色を...」とか「市民・事業者・行政の共同・連携をきちんと図ること」とか「市域を越えた広域的な連携」こう言うことをきちんとっておけば方向としての基本的な考え方になると思う。確かにこれだけだと地域ポータルだけを強調しすぎている気がする。

岡田和) 元来のポータルの意味をただ、みんな「サイト」と思ってしまうところがある。

会長) 地域ポータルについて、ここで予算を出さなくてはということはあるのか。

青柳) それはない。

佐々井) 少し説明の言葉を入れたら誤解がなくなるのではないか。

富永) 家庭の主婦が見てどう感じるか気になる。市民の目線が文章に欠けている気がする。これをいれて市民の生活がどう変わるかという事がどこにも無い。小平に住んでいた時に小平の中央公園の施設を利用するのに朝9時に並ぶ。公平性をきちんとするために条件を厳しくするから、ちょっと違った件だと「それについては1時から来なさい」という。朝忙しい人が勤めを30分休んで来ても、書いたことが1行違うから「1時に直して来なさい」というのはいかにも官僚的。メールやホームページでやり取りすれば良いこと。だがそう言うとホームページでやるとデジタルディバイドな問題があり不公平なので平等にする為に来て並んでもらうと言う。そうすると市の施設を使いたくなくなる。市民に対する行政サービスを受けるために保健所や市役所に行くことが主婦から見るとあまり好きではない。市の行政サービスが全部家庭のコンピュータに入りますよ、と言うようなキャッチフレーズが市民ポ

タルサイトだとよい。「地域」ではなく「市民」の為のポータルサイトという表現の方が良いのではないか。ここで書いてある、「地域事業・事業所・NPO」とかは、主婦から見ると使うのに制限があるように感じるのではないか。申込用紙に何か欠けてる為に「後で来なさい」という行政サービスが実際にある。市民の利便性をまったく無視している。市民の目線というのを表現して、市民に対するサービスが何か、どう言う風に生活が変わるか。楽しい生活・楽な生活になるのか。それと、資料全体から西東京市が閉じている様に感じる。西東京市に住んでる人は市の外側に行く、父親の立場から見れば、父親達が会社でアクセスする。市民が市の外側で市内の情報等に対する色々なアクセスができるのが情報ネットワークの特性である。市の外側にいてもサービスが受けられる、或いは、もと市に住んでいた人が住所を移しても、あるいは子供などがアメリカやヨーロッパに行っても市のサービスが受けられる、そう言うのが、「ポータル」という意味でのネットワーク機能の特性ではないか。

会長) 図は良い流れかもしれない、「地域ポータル」という名前が悪いのでは。

富永) 地域という言葉のニュアンスが国境線を作っている雰囲気がある...、もうちょっと開いた表現がいいと思う。

「地域の情報化」とかは、国からみて各自治体に対して予算をつける為の国の言葉ですね。タイトルの「地域情報化推進の方法」で使っている「地域」は良いと思うが、中に書いてある「地域ポータル」の「地域」は行政の言葉としては良いが、市民にキャンペーンするときの言葉というのはもう少し市民の目線・主婦の目線の言葉が欲しい。

会長) 左側の「地域の情報化資源...」は法人を対象とするの言葉が出てきてしまっている、市民のポテンシャルの言葉で書かないといけないのか。

佐々井) ネットワーク社会の中でどんな風に連携しているかとか協力していけるかという縮図だと思うが、ここで述べられている内容は前にいくつか整理したものよりは少し狭いとイメージだと思う。方法論として整理するなら違った形の方がいいかも知れない。ウェブを中心にどのように情報発信・情報提供して行くのかというのが説明の中心になってしまう。それならばこの後続くであろう事業内容の部分にウェブというものが出てくるでしょうから、そこで書けば十分であって、もっと基本的な内容をここで言うのならまだまだ言い足りないのではないか。

富永) これは提供者側の言葉なんですね。

佐々井) 我々も良くこういう絵は書く。システムの体系とかをイメージしてもらうときに、色々な主体を散りばめながら、その中でどんなシステムが動いているかイメージしてもらう為に作っている。

富永) 書いた方はよくわかってられて、(図は)非常に良くわかる。書いた中身はあっていると思うが、言葉使いが問題である。

会長) 意義目的のところは体系的な考え方が述べられていて、第二章のところはそれを

具体化する推進の方法だから、当然主体が何かとか地域の広がりが何かという問題をうまく表現しなければいけないと思う。また、システム的なものをどのように捉えるかとか。(4ページ)上の「地域ポータル」という所だけが異質な感じである。それ以外の所は方法としてはそれなりに意味合いがちゃんとしている。

富永) 3年ぐらい先の生活イメージはどうなっているのか。住んでる人がどのような日常生活を送るのか。典型的な市民の生活が地域情報化が実行された市において、どういう市民生活がイメージされるのか。

青柳) 計画は平成16年からである。ある程度インフラが整備されている状況にあるのが前提になる。感覚的には目標で書いてある通りになるというイメージである。しかし、十分にイメージしきれてない。

小館) 西東京市の地域の事を考えながら聞いていたが、若い世代と一緒に住んでいる家庭は良いが、そうでない人は置いてかれるのではないかと。集会所とかを使うのにいちいち出かけていかなければならないので、公共のものの中で高齢化社会にどう対応するか考えないと受け入れられるのが難しいのではないかと感じている。置いていかれるか逆に無関心になって、チラシで情報を受けたほうが便利だと言う層がかなり厚くあるのではないかと。3年後でもまだそういう感じがあるような気がする。地域内の発信は考えているが、それを受ける側を考えないといけないのではないかと。私のような年代でも携帯やパソコンをもっている人はいるが、「自分は関係無い、テレビがあれば良い」と言う人もいる。

富永) テレビのスイッチを押す程度の操作で、市のポータルサイトにアクセスできて、簡単に充実感のあるやり取りが出来れば、色々なお知らせや病院や市からのサービスで、本来なら市役所まで来なければいけないというのが、歩かなくて良くなるということなのだと思える。老人の方たちが年に何回か市役所にくるのは厄介である。

会長) 地域の特色をどのように作っていくのかという所で、家族の問題とか高齢化の問題を明るいイメージでITがうまく作っていく、生涯学習が出来る環境がITに支えられていて、テレビでもインターネットがバンバン出来るということを目指していると言う事が盛り込まれていると言うのであればよい。

富永) 従来、市の行政サービスが9時から4時半までだったのを24時間・土日自宅でも受けられますとか。行政サービス中でコストのかかる部分があっても、それが効率よくできますとのアピールが必要でないか。今までやっていた行政サービスのままでただ単にコンピュータが入ったら余計な費用がかかってかえって使えもしない機械が置かれたということになるとネガティブになる。行政サービスがどういう風に変わるかという表現よりは、市民の生活がどのように変わるかが重要である。

会長) 「地域ポータル」のところにそういう言葉が入れば収まる気がする。

岡田和) しかし、情報の収集・配信に偏っている気がする。もう少し広げて、いわゆる地域情報化推進の方法ではなく、地域情報化推進のポイントということがよいのではないかと。確かに情報の収集・配信も西東京市や外に向かってあるが、この図だけでは

情報化を表せないのではないか。

それと標語であり「お年より」というのが無いのでつらいものがある。高齢者の方が簡単に使えるというものを政策として配るとか、それがテレビ風でタッチパネルでテレビ電話が出て来たり、押せば住民票が入ったりとそこまで考えてあれば良いと思う。しかし、そのような事は4ページ目には入らない気がする。

会長) (4ページ)二つ目の「地域情報化資源」とか「地域の特質・特色」を「市民参加」とかの表現にすればどうでしょうか。

佐々井) 情報化社会に住民が暮らしていくにはそれなりのリテラシーの向上も必要で、その手助けもしなければいけない。教育も重要でその一部である。一方で行政の情報化がここでは出てこない。24時間の便利な行政サービスなども考えていると思うが、インターネットを利用してどんな風に情報交流・発信をしていくかという所で、それは極めて大きな意味を持っていると思う。その意味で「地域ポータル」は行政が仕掛けるポイントだと思う。ただ、ちょっと狭いので、ここでは「ポイント」みたいな言い方で整理して書いてはどうか。もちろん人を育てるとのこととか、情報化社会で豊に暮らせるように支えるとか、その辺もポイントで3・4点くらい書いて、情報推進をするときに西東京市としてはこのような所をポイントにしますと、ある意味ではプライオリティーの高い話だと考えていますと言う様に整理したらどうか。

矢内) 次に3をおこして地域情報推進後の暮らしとかイメージとかはどうか。

富永) 市民の生活のイメージをわかりやすく。

会長) 「推進化の方法」の所は推進のポイントということで整理したらよいのか。

ここではそれを具体化する方策を指摘しなければいけない所で、ここに書いてある言葉をポイント的に挙げて、このような事を考慮しなければいけないとよ、と言う言い方をして、特に重要な指摘は市民の参画、行動がうまくこの中に表せるような形のアイテムを入れて行かなければいけない。情報提供が主体過ぎるという指摘がありましたから。そういう形でのまとめ方が良いのではないか。

青柳) 「ポイント」というタイトルで挙げていけば分かり易いですか。

会長) 基本的な考え方を整備する段階ですから、それが良いかも知れませんね。

青柳) 次に「留意点」と書いてあるのですが、「留意点」と同じ様な形で揚げればよいのか。

岡田和) 留意点とは違う様な気がするが、要するに目的と具体的な政策とを繋げる章だと言う感じでどうか。留意点はこのままで言いと思う。

会長) では、今の意見を事務方で整理して頂くということによろしいか。

5ページの留意点の所だが、ここに挙げてある事は他の所でも指摘されているが、これで良いのか、それとも西東京市独特な問題を留意点として指摘するのか、いかがか。

富永) 個人情報の保護とあるが、もう少し幅の広い問題があるかも知れない。システムに対して外からの妨害もあるし、「個人情報」だけだとプライバシーだけの事と言う気がする。パブリックリソースに対して公開をして分かり易くするという事と、それ

に対するガードとセキュリティーを管理すると言うことがあって、その中に個人情報があるのではないか。

会長) これは両方の抱き合わせなのか。「セキュリティー対策と個人情報の保護」とか、そういう形にして行かないと言うことか

富永) 個人情報だけだと、匿名とか名前・年齢は入れないとかの低いレベルの話になってします。

会長) 抱き合わせの「セキュリティー対策と個人情報の保護」というタイトルにした方がいいですね。

富永) 透明性・公開性とセキュリティーが一對でうる。

佐々井) みずほ銀行の問題が起きたとき我々の中で議論になったが、行政のシステムというのはほとんど内部の個別システムである。これからのシステムは直接住民に使ってもらうシステムが増える。ATMが止まってしまうのは非常に迷惑だけでなく社会全体に罪悪を与えるという問題を持っている。電子入札とかをやり始めて、問題がおきると損害賠償などの話も考えられる。そこを考えると従来以上にセキュリティーとか安全対策は、システムは社会の公器として存在するんだと言う意識で行かないととても「すいません」ですむ話ではないと思う。そういうところが大事だと思う。

会長) (5 ページの)下の方に「情報システムの安全性」と書く必要があるかもしれない。「パブリックアクセスの充実」とはどのような内容なのですか？

青柳) 色々なアクセス手段を樹立していくということである。

会長) ユーザー側から見て、公的手段に対するアクセスの意味か。

佐々井) 例えば、携帯とか。

青柳) 情報公開と含めて、誰でも気軽にアクセスできる環境を確保していくとうことである。

岡田和) 地域ポータルをやると、誹謗中傷の類もある。その所はどのように対応するか課題であろう。

富永) それと倫理的な問題もある。

矢内) 最近でいうと、いわゆる危機管理という問題がある。それから色々な局面があると思われるが、リスク対応の視点もある。例えば、市民がリスクを負ったときにどうするかとい問題。そのような視点も最近の動向として必要かも知れない。

会長) それは情報に対する危機対応か。

矢内) システムそのものに対するものもあるし、それと、誹謗中傷にあった市民が出た時の事を想定した、行政として留意しとくべき事もあると思う。

会長) システムの所で安全性という問題があるが、この安全性の中に危機対応とかリスク対応とかが言葉として足りないのではないか。

佐々井) 東京都の計画でもこの辺が非常に難しい。この中で入っていないのは利用者保護だと思う。個人情報の話も絡むが、色々な意味でイーコマースが広がっているので、単

なるネットの利用者であっても消費者の姿をあらわしている場合もあるので、そのところを行政が「しりませんよ」というのは言いにくい。現に消費者保護の色々なことをやっている。その一環としても考えられる。その辺の重要なことと思う。

会長) 言葉としてはどういう言葉があるか。

佐々井) 東京都では消費者保護という言葉で整理したと思うが。もっと広い意味があるような気はする。

岡田和) 消費者保護は留意点ではなく情報化の一つの目的なのではないか。留意点となると情報化にあたって注意しなければいけない点を挙げるわけであるから。

会長) 消費者保護とか、倫理関係とかリスクとかを一まとめにする言葉はないか。

富永) 一つの項目に全部言葉を並べていけば良いのではないか。一つの言葉にしてしまうとわからなくなってしまう。

会長) 色々出た言葉をうまくレイアウトしていただきたい。7ページ以下は事実関係を書いただけですね。では、今日出た意見を事務方でまとめてメールで送ってください。

- 3 . 市民実態調査について 青柳

【資料 地域情報化計画策定に関する実態等調査(案)】

会長) スケジュールはどうか。

青柳) 5月いっぱい項目を決め、6月いっぱいアンケート調査。7月上旬に集約と考えている。

会長) アンケートの方法について委員にメールがくるのはいつ頃になるのか。

青柳) 5月半ば過ぎに、設問内容について一度ご覧いただければと考えている。

会長) 私宛に NTO の雑学大学から要望書が届いてまして、市の方にも写しが来ていると思いますが。

青柳) 印刷してお配りします。

会長) では、調査の内容については、いずれメールで送信されてくると言う事で、意見があればそれで言うていただくということによろしいか。

青柳) 訪問で調査表の配布と回収をしたいと思っているので、回収率は高くなると思う。50%くらいはいけると思う。

- 4 . 庁内ヒアリングについて 青柳

【資料 地域情報化計画に関する諸計画との調整(各部、各計画ヒアリングテーマ)(案)】

・各部の計画も含め、情報に対する考え方をヒアリング形式で議論する。

・5月・6月・7月で行う。

・事前に各部にテーマを渡し、準備をしてもらう。

会長) テーマに関しては14年度の実施の問題もありますが、それとも15年度以降の内容か。

青柳) 計画は16年度からの内容なので、その中で情報化の部分についての位置付けとい

う話になっていきます。一部15年度の予算と言う話も出てくると思う。

青柳) 時間も無いので、テーマについてのご意見はメールで頂ければと思う。
次回の審議会は5月だが、一回にできないので、一回で二つのセクションとかという形でヒアリングの場を持っていきたい。それまでには基本的な考え方も整理して、それに基づいてヒアリングを行なうこととなる。

岡田和) 地域情報計画を実行した場合に、こういう関係部署が実行する部隊になるのか。例えばモデル4校というのは実際の政策としては学校教育部のがやるのか。

青柳) そのとおり。

岡田和) 農業からコミュニティーバスに関する事まで、ずいぶん幅広い。

会長) 自治体の情報化はあらゆる所に絡むと思う。

岡田和) 計画のラインに乗ったのもあれば、各部の特色で行っている部分もあると考えてよいのか。

富永) テーマは大変素晴らしい。これは各部が自発的に考えたのか。

青柳) 事務局側で想定した。

富永) もし、各部で自発的に出てきたテーマなら素晴らしいと思う。

青柳) これらは当然情報化のテーマとして考えられることと思う。

岡田和) 各部の指導の原理を我々が策定していると思って良いということか。

富永) 各部に宿題を出したと言う事で、大変良いと思う。

坂井) ただ、現実の到達地点と現況がこちらの想定してるものとずれている恐れもあるので、ヒアリングもどのようにして行くか現場と詰めたいと思う。あまり空論で理想論を担当者が言っても現実ともなわないことがままありますので。現況と取り組みの基本的な姿勢を整理したヒアリングにした方が良いと思っている。

会長) これからヒアリングで各担当の方が述べていけば良いと思う。

- 5 . 次回審議会の日程について

・5月28日火曜日 午前9時30分より